

回	テーマ	著者名	書籍名	出版社名	出版年
列1	列2	列3	列4	列5	列6
第0回	近代化と開発とその先	佐藤寛	『開発援助の社会学』	世界思想社	2005
第1回	再帰的近代化と開発	伊藤美登里	『ウルリッヒ・ベックの社会理論—リスク社会を生きるということ』	勁草書房	2017
第1回	再帰的近代化と開発	ハンス・ロスリング 他	『ファクトフルネス—10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』	日経BP社	2019
第2回	ジェンダーと開発の跛行性	ナイラ・カビール	『選択するカー・バングラデシュ人女性によるロンドンとダッカの労働市場における意思決定』	ハーベスト社	2016
第2回	ジェンダーと開発の跛行性	チョ・ナムジュ	『82年生まれ、キム・ジョン』	筑摩書房	2018
第3回	栄養不良と市場資本主義	ヴァンダナ・シヴァ	『食糧テロリズム—多国籍企業はいかにして第三世界を飢えさせているか』	明石書店	2006
第3回	栄養不良と市場資本主義	湯沢規子	『胃袋の近代—食と人びとの日常史』	山口屋ハチ山版 会	2018
第4回	不平等の持続可能性	リチャード・G・ウィ ルキンソン	『格差社会の衝撃—不健康な格差社会を健康にする法』	書籍工房早山	2009
第4回	不平等の持続可能性	スーザン・ジョージ	『なぜ世界の半分が飢えるのか—食糧危機の構造』	朝日選書	1984
第5回	移民受け入れは開発援助か	ダグラス・マレー	『西洋の自死』	東洋経済新報社	2018
第5回	移民受け入れは開発援助か	高谷幸編	『移民政策とは何か—日本の現場から考える』	人文書院	2019
第6回	援助は正義か	神島裕子	『ポストロールズの正義論—ポツゲ・セン・ヌスバウム』	ミネルヴァ書房	2015
第6回	援助は正義か	佐藤仁	『野蛮から生存の開発論』	ミネルヴァ書房	2016
第7回	農村は生き残るのか	イアン・スクーンズ	『持続可能な暮らしと農村開発—アプローチの展開と新たな挑戦』	明石書店	2018
第7回	農村は生き残るのか	藻谷浩介	『里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く』	角川書店	2013
第7回	農村は生き残るのか	小田切徳美	『農山村は消滅しない』	岩波新書	2014
第8回	紛争は開発課題か	リンダ・ボルマン	『クライシス・キャラバン—紛争地における人道援助の真実』	東洋経済新報社	2012
第8回	紛争は開発課題か	岡真理	『ガザに地下鉄が走る日』	みすず書房	2018
第9回	開発資金はどこからどこへ流れるのか	リチャード・マ フィー	『ダーティー・シークレット—タックスヘイブロンが経済を破壊する』	岩波書店	2017
第9回	開発資金はどこからどこへ流れるのか	日本経済新聞社 編	『SDGs, ESG 社会をよくする投資』	日経MOOK	2019
第10回	サプライチェーンとSDGsウォッシュ	レスリー・T・チャン	『現代中国女工哀史』	白水社	2010
第10回	サプライチェーンとSDGsウォッシュ	下山晃	『世界商品と子供の奴隷—多国籍企業と児童強制労働』	ミネルヴァ書房	2009
第10回	サプライチェーンとSDGsウォッシュ	ビーター・リーライ ト	『子供を喰う世界』	晶文社	1995
第11回	貧困削減と社会的排除	ルトガー・ブレグマ ン	『隷属なき道—AIとの競争に勝つ ベーシックインカムと一日三時間労働』	文芸春秋	2017
第11回	貧困削減と社会的排除	ジグムント・バウマ ン	『新しい貧困—労働、消費主義、ニュープア』	青土社	2008
第12回		灘本昌久	『ちびくろサンボよすこやかによみがえれ』	径書房	1999
第12回		「外国につながる 子どもたちの物 語」編集委員会編 井上俊、上野千鶴 子、大澤真幸、見 田宗介、吉見俊哉	『まんが クラスメイトは外国人・課題編』	明石書店	2020
第12回			『差別と共生の社会学』	岩波書店	1996